

秋田県鹿角市 「起業家目線で、地域の新たな魅力を発見！」

- プログラム概要 : 鹿角市にてUターンの経営者にインタビュー調査を行い、地方で事業を起こすために必要な視点や考え方、知識を学ぶ。
- 実習先 : 秋田県鹿角市
- 実習先情報 : 8名
- 学部学科 : 日本文学文化学科、政治学科、経済学科、経営学科、会計ガバナンス学科、環境システム学科
- 実習期間 : 令和5年9月4日～9月13日
- 本学担当教員 : 姜 雪潔(経営学科)

○はじめに

秋田県鹿角市では、市が有する豊かな資源や充実した移住・起業サポートを背景に、多くのUターン者が事業を起こし、自ら雇用の場を作り出している。本プログラムでは、Uターンの経営者にインタビュー調査を行い、地方で事業を起こすために必要な視点や考え方、知識を学んだ。滞在中に、現地企業・団体でプロジェクト型インターンシップを実施するなど、現地の方々と多様な交流活動を行った。

○実習内容

◆事前学修

- ・鹿角関連の基礎知識習得(6/17(土)～9/2(土)の間に5日間実施)

◆学外学修

- ・DAY1. 移動、まちなかオフィスでのオリエンテーション・市内見学
- ・DAY2. プロジェクト型インターンシップにご協力いただく企業・団体経営者ヒアリング
株式会社タカヤ、燻製屋 猫松、綱木農園
- ・DAY3, 4, 6. 各企業・団体に分かれてプロジェクト型インターンシップ実施
- ・DAY5. 市内見学→当初は市内の十和田小学校での交流を予定していたが感染症拡大による学級閉鎖により中止。
- ・DAY7. 地域創生のキーパーソンとの交流活動(情報交換会・大BBQ 毛馬内エリア)
- ・DAY8. 成果発表会準備(まちなかオフィス)
- ・DAY9. 市民公開型成果発表会
- ・DAY10. 振り返り、現地解散

◆事後学修

- ・活動ワークブック、成果報告書作成(9/16(土)～10/14(土)の間に3日間実施)
- ・鹿角家U25家族会議での成果報告(10/21 武蔵野大学 有明キャンパス)

○提案したこと

- ◆各受入企業・団体ごとに事業提案をまとめて報告会にて発表した。

・株式会社タカヤ

- 主な活動内容: 地元商店・経済の在り方(講義)、社内会議参加、地元FM局出演など
- 事業提案: 業務スーパーのサブフランチャイズ事業

・燻製屋 猫松

- 主な活動内容: 市場調査(道の駅)、ターゲティング、食材調達、商品開発など
- 事業提案: 新商品「レーズンの燻製」(燻製レーズン×アイス)

・綱木農園

- 主な活動内容: 鹿角での農業の現状・市場特性、野菜の収穫、さつま芋の知識習得
- 事業提案: さつま芋の新商品(ほしいもくん、干し芋アイスサンド、スイートポテトの種)

○経験したこと、学んだこと

・私が3日目で学んだことは新事業の提案する難しさだ。今回私たちが重視したのが持続可能か経営理念に沿っているか、東北に進出しているかなどだ。限られた時間で食品だけでなく、美容など様々なことについて調べたが、条件にあった企業というものは見つからず、多くは既に行われていた。このように企業リアルを体験し、何を行うにしても情報を集めて物事を整理することが必要と知った。(タカキ班)

・なぜ顧客と会わなければいけないのか、今回は本当に大事なことだと感じた。顧客に買ってもらうには、本当に欲しいものを分析して売らなければならない。そのために顧客や実際の売り場にいる人に聞いたり、食べてもらって意見をもらわなければいけないと感じた。つまり、データや根拠に基づいた斬新なアイデアが必要。ある程度アイデアの元となる事象をデータや根拠でスクリーニングし、そこに当てはまるエッジの効いたアイデアが商品開発で必要だと学んだ。(猫松班)

・私たちが学んだことは、農業は参入ハードルは低いが、知識がなければ収益を出すことは難しく、幅広い知識が必要であるということである。具体的に、作物は土壌や地域性、肥料や水分量や天候など、様々な要因によって生育状態が変わってくるが、作物の種類によっても必要な要素は変わるため、状況に応じて栽培しなければならない。これらは、生物学や地学、化学、機械学、経営学(販売方法)、経済学(市場の需要と供給)などといった幅広い分野が絡み合っているため、正しい知識を得られずに、収益化ができないという可能性も大きくなる。私はこのことを学び、農業とは1人でマルチプレイをする、非常に難しい業種であると感じた(綱木班)。

○今後の展開

・新商品発売に向けた動きが具体化(燻製屋 猫松)

学生の商品提案の後を受け、実際に商品発売に向けて動き出した。

—改良点:「燻製レーズン」から「燻製ラムレーズン」

—発売予定:令和6年3月下旬

○まとめ

今回のプログラムを通じて、地方での起業や新規事業をテーマにした活動が、ビジネス面のみならず、地域の魅力発見につながった。また人的交流や地域での生活を通じて地方が持つ豊富な資源、多様な可能性に気づかされた。ご協力いただいた企業、団体様、また私たちを受け入れていただいた鹿角市の皆さまに大変感謝している。

○担当教員コメント

今回のプログラムでは、経営者目線でこれからの事業展開を考えるインターンシップが組み込まれた。どの班も経営者が自ら指導して下さった。机上では得られない学びが多く、とても実践的な内容となった。一生懸命に取り組んだ皆さんの参加姿勢も非常に評価したい。



タカヤ本社



燻製のテスト



収穫した安納芋